

1. 適用範囲 SCOPE

下記製品の結線方法について規定する。

This specification specifies the process of the following product.

製品名 PART NO.	CLコード CODE NO.
MRF18-8P-178B/U	CL313-1105-5

2. 結線方法 PROCESS

次頁による。

See next page.

COUNT	DESCRIPTION OF REVISIONS	DESIGNED	CHECKED	DATE
3 1	DIS-D-003358	HA. NISHIMURA	MH. TSUCHIDA	14. 07. 29
名称 TITLE		HRS ヒロセ電機株式会社 HIROSE ELECTRIC CO., LTD.		
MRF18-8P-178B/U 結線手順書		APPROVED	MH. YAMANE	13. 10. 19
		CHECKED	MH. TSUCHIDA	13. 10. 19
		CHARGED	HA. NISHIMURA	13. 10. 19
		WRITTEN	HA. NISHIMURA	13. 10. 19
技術指定書 TECHNICAL SPECIFICATION		ATAD-D1019		3 1 2

No.1

作業図

図1

作業内容

1. このコネクタに適合するケーブルは下記の同軸ケーブルです。
ケーブル端は垂直に整えておくこと。図1の寸法で端末処理を行います。
ケーブル名 : RG-178B/U : 外被径φ1.8
仕上径φ1.37フレキシッ'ル同軸ケーフ'ル : 外被径φ1.37
仕上径φ1.13フレキシッ'ル同軸ケーフ'ル : 外被径φ1.13
ケーフ'ル寸法(参考)

呼び(外被径)	φ1.8	φ1.37	φ1.13
外被	φ1.8	φ1.37	φ1.13
外部導体	φ1.3	φ1.1	φ0.9
誘電体	φ0.86	φ0.88	φ0.7
中心導体	φ0.3	φ0.3	φ0.24

注1) 外被や誘電体を取り除く時、外部導体、誘電体、中心導体(特に各切断部)に傷を付けぬ様、十分に注意して下さい。

No.2

作業図

図2

作業内容

2. 中心導体、外部導体に予備はんだを行います。
注1) 予備はんだ時、誘電体に溶けや膨れがないよう注意して下さい。
注2) 予備はんだの際、外被径φ1.8ケーブルはフラックスが外被に過多につくとリテーナーをPハウジングにセットし難くなるため、ふき取して下さい。

No.3

作業図

図3

作業内容

3. 図3のようにリテーナーを取り外しMRF18-8P-178B/Uを受台(専用治具)に取り付けます。

外被径φ1.8ケーブル用 : MRF18-8P-178/SO-WD
外被径φ1.37ケーブル用 : MRF18-8P-137/SO-WD
外被径φ1.13ケーブル用 : MRF18-8P-113/SO-WD

ただし、外被径φ1.37以上の同軸ケーブル使用時は広げ治具(専用治具: MRF18-8P/PR-WD)を使用して、D矢視図のようにPシェルの外部導体接触部(ハネ)を広げます。

No.4

作業図

図4

作業内容

4. 同軸ケーブルを図4のように受台のケーブルクランプ部に合わせて固定します。その際、誘電体がメスタンシの端部(E)に突き当たるよう図4-1のように配置します。

注1) 図4-2に示すエリアからはずれないよう、中心導体を真っ直ぐに整えた状態で、配置して下さい。このエリアからはずれるとPシェルとショートする恐れがあるので注意して下さい。

No.5

作業図

図5

作業内容

5. 図5のように、Pシェルにコテ先を触れ、はんだ付けします。
次に、図5-3のように中心導体をはんだ付けします。
・コテ先形状は以下を推奨。
・中心導体はんだ付け
・外部導体はんだ付け

(コテ先参考)

	中心導体側	外部導体側
METCAL製	STTC-145	STTC-138
HAKKO製	T18-C05	T18-D16

はんだコテ先温度 : 350℃
はんだ付け時間 : 5秒以内(はんだ濡れ開始より)
はんだ量 : 中心導体側φ0.3 1.5mm程度
外部導体側φ0.5 25mm程度

注1) 同軸ケーブルの中心導体がメスタンシの上面に接触するようにはんだ付けして下さい。
外部導体にコテ先が触れると誘電体が溶けるため、直接触れないようにPシェルにコテ先が触れるようにして下さい。
予備はんだにより膨れた外部導体、中心導体をピンセットで軽く抑え(図5-1の2箇所)、外部導体の予備はんだを溶かして、いったん高さ合わせをします。

注2) 外部導体はんだ良品基準(はんだフィレット形成、及び、全体に充填された状態)を満たしていない場合は、図5-2の方法ではんだを追加、及び、修正して下さい。

注3) コテ先先端を外部導体に強く押し付けると誘電体に穴が空き、ショートする恐れがあるので、注意して下さい。

注4) コテ先がPハウジングに触れて溶かすことのないよう注意して下さい。(図5-4に示す部位はリテーナーの挿入に影響します)また、長時間加熱するとPハウジングが溶けるため、出来る限り素早く作業を行って下さい。

注5) はんだ付けはイモ、ツララにならないように注意して下さい。

注6) はんだ付け等により生じたコネクタ内部の汚れはIPA等でふき取り、エア掛けを行い、絶縁・耐圧不良を防ぎます。

No.6

作業図

図6

作業内容

6. 受台より取り出して、リテーナーを取り付けます。

注1) 外被径φ1.8ケーブルの場合は、リテーナーが外被を押さえているため、リテーナーがそり、Pハウジングの突起部に干渉します。図6のように突起部を指で押さえながらリテーナーを取り付けます。

ハーネス後のL寸法とケーブル切断長について

指定長L1の場合: 切断長L=L1-6.6
指定長L2の場合: 切断長L=L2+8.8

製品名

PART NO.

CLコード

CODE NO.

MRF18-8P-178B/U

CL313-1105-5

HS

HIROSE ELECTRIC CO., LTD.

ATAD-D1019

3

2